

進捗状況の概要（2 ページ以内）

① 大学改革の加速

平成 30 年度の AP 事業の取組により、大学全体の改革が加速された点として、主として以下の 3 つを挙げることができる。

・「OCU 指標」の導入を通じた教育改善

平成 30 年度には、(先行して導入していた経済学部およびユニット制をとる医学部医学科を除く) 全学部において、学部独自の学修成果の決定および全専門科目の OCU 指標の成果配分値の決定が行われた。これにより、次年度より OCU 指標による学修成果の把握と可視化が可能な体制を全学的に整えることができた。この体制整備により、OCU 指標を学位プログラムにおけるディプロマ・ポリシーとカリキュラムの相互関係の確認や見直しに活用することが出来ることとなった。実際に、OCU 指標を先行導入していた経済学部では、試行運用実績をもとに、専門科目における成果配分値の見直しが行われるなど、OCU 指標の導入は、教育点検・改善(内部質保証の取組)に寄与しつつある。

・FD・SD 実施体制の整備

平成 29 年度までは、各部局等と全学とで個別に FD 活動の取組を行ってきたが、全学的な戦略のもとでの活動や全学的情報周知と集約ができるよう体制を整え、令和元年度からの「全学 FD 委員会」の設置が決定した。また、SD 活動についても、本学では、これまでも学内で様々な SD の取組が行われながらも、取組の全学的な集約や実施状況の評価を次の取組に活かす体制にはなっていなかったため、平成 30 年度には「SD の在り方検討ワーキンググループ」が立ち上げられ、全学的な定義を定め、多様な取組を体系的に把握することができるよう議論を始めた。これらにより、今後、全学的組織体制の支援のもとで、本学の「教育改善・FD 宣言」に則した、教育改善及び FD・SD 活動の取組を効果的に実施できる体制への整備が進んでいる。

・教育方法の改善のための取組

平成 30 年度には、様々な教育実践を各教員が学び、それぞれの授業・教育に活かすことができるよう、ワークショップ等の開催や「教育実践事例 WEB データベース」(本学教員による多様な教育実践事例を参照できるデータベースであり、各教員が個別に取り組んできた工夫や課題に関する経験・事例を全学で共有しやすくすることで、教育方法の工夫や改善を促進することを目的に構築されたもの)において Active Learning 型の教育実践事例分類を追加する等の改修を通じて情報提供を行った。また、第 20 回 FD ワorkshop として全学向けに、授業デザインの観点からの反転授業の実施に関するワークショップも開催した。これらによって、Active Learning 型の教育をはじめとする学生の学修成果向上に資する授業推進や教育方法の工夫・改善の促進を図り教育改善に貢献した。

② 事業の実施体制

平成 28 年度に構築した AP 事業の推進体制(学長をトップとしたステアリング委員会、AP 事業部プロジェクト推進委員会と 4 つの推進チーム)のもと、事業を実施した。平成 29 年度に正式稼働した、内部質保証総合活用スキームの構築・運用の起点である「学修支援推進室(通称:OCU ラーニングセンター)」を継続して稼働し、学内関連部署との連携体制のもとで、学生の自律的学修を促進するための取組を継続して実施した。さらに、「OCU 指標」の活用も含めたキャリアデザイン(教育)支援の実施と、本学の教育成果に対する社会的評価の把握のため、ステークホルダーとなる本学卒業生の就職先企業に対する調査を企画し、新たに就職支援室と連携して令和元年度での企業調査の実施に向けた段取りを進めた。

また、本学の教育・学修成果を評価する「学内教育評価委員会」を開催し、教育目標に即した直接および間接評価(OCU 指標、各種調査結果、PD・TA・SA の活動状況等)の実施状況を集約・分析し、事業の進捗状況と問題点の洗い出しを行った。全学的動向と事業終了後を見据えながら、「OCU 指標」の活用による教育改善や学修相談のより一層の有効化に向けた課題整理を行い、次年度以降の事業運

営方針に反映させることができた。

③ 事業の実施計画・継続性

〈OCU 指標チーム〉では、全学共通教育科目における OCU 指標の導入と、学部独自の学修成果および全専門科目の成果配分値を決定し、令和元年度から OCU 指標の全学的導入が可能な体制を構築した。同時に、学生が OCU 指標を参照しやすくするためのシステム改修を行った。〈学修推進チーム〉では、学修支援推進室を中心に、学生の自律的学修を促すための取組を継続して行った。具体的には、一般的な学修相談、英語学修支援と数学学修相談を実施した。平成 30 年度は、英語学修支援の支援内容を拡大し、新たにライティングに特化した英語学修支援を開始した。数学学修相談では、PD 相談員を中心に、学生向け広報の仕方を工夫しながら相談を実施した。継続して TA/SA を募集し(年 4 回)、TA/SA へのアンケート調査および学修支援推進室に勤務する TA へのヒアリング調査を実施し、TA/SA の業務内容や育成プログラムの点検と改善を行った。TA/SA と教員や学修支援推進室勤務の PD とが協力しながら、自律的学修促進のための補助学修教材「学びの Tips」の開発や各種の学修・教育支援セミナー・イベントの企画・実施、教育支援ツールの改良など、学生ニーズに基づく学修支援・教育支援の取組を進めた。〈教学 IR チーム〉は、各種調査を計画通りに実施・分析した。〈FD・SD チーム〉は、FD 研究会等を計画通りに開催するとともに、SD の実施情報の集約化と精査に取り組んだ。

これらに加え、補助期間終了後を見据え、基幹教育機能を持ち、今後も持続的・効率的に全学横断型の教育プログラムを担えるよう、学修支援推進室の機能を拡大する方向で、令和 2 年度以降に「教育開発支援室」の設置を決定した。

④ 事業成果の普及

平成 30 年度の成果として、次年度からの OCU 指標の全学的展開に向け、「OCU 指標」の成り立ちや特徴をわかりやすく解説した資料(学びの Tips)を発行し、これを活用した説明会を実施した。令和元年度全新生への配布も行う等、学内での周知に努めた。

学修支援推進室における学修相談の利用は計 359 件であり、平成 29 年度の 201 件から約 80% の増加となった。自主学修教材「学びの Tips」を計 10 種発行し、平成 30 年度からは、学修支援推進室 HP でも学内公開したことで、広く利用が可能となった。さらに、授業時間内だけでは修得することが難しい、レポート執筆やプレゼンテーション等に関する学修・教育支援のセミナー等を計 19 回実施した。これらの一部は、学生のための学生による学修支援として、学修支援推進室勤務の TA/SA が、企画・実施している。このこと自体が、自律的に学修する学生のモデルの提示ともなっている。

これら全成果(や途中経過)を、全学 FD 事業や大阪府立大学・大阪市立大学・関西大学 AP 合同フォーラムにおける報告と資料配付および AP パンフレットへの掲載、AP テーマⅡ・Ⅴ全国シンポジウム、テーマⅤ地域別研究会等における資料配付を通じて、本事業の成果の普及に努めた。

また、平成 30 年 10 月に学修支援推進室の HP を公開し、本事業の成果を公開するとともに、学生が各種学修支援や自主学修教材等にアクセスしやすいページ開発・情報公開や記事の発信を行った。

⑤ 選定されたテーマの取組を中核にした総合的な大学教育改革の取組

OCU 指標を活用した学修成果の可視化のための OCU 指標の成果配分値の決定過程において、平成 30 年度までに、全学的にディプロマ・ポリシーとカリキュラムの整合性に関する点検が行われた。さらに、OCU 指標を全学的に展開することにより、令和元年度以降からは、OCU 指標の活用およびその点検作業を軸とした PDCA サイクルのもと内部質保証の体制を整備することができた。

全学 FD 事業として AP 事業での取組を全学的に周知・共有するとともに、AP 事業以前より行われてきた各学部等における学修成果の質保証に係る取組や各種調査データの活用についての FD 研究会を開催したことで、全学的な意見交換(学外からの参加者も含む)を行う機会を設け、学修成果の評価方法やその課題と解決方法を共有し、教育改善につなげる機会を提供した。

本学の教育成果の社会的評価や本学に求められる学修成果を把握し、学生のキャリア形成(教育)支援の一つとしての OCU 指標および OCU 指標を活用した学修相談の一層の有効化を目的として、本学卒業生の就職先企業への企業調査を企画し、次年度の実施に向けて就職支援室との連携体制を整えた。

(テーマ：Ⅴ、大学等名：大阪市立大学)